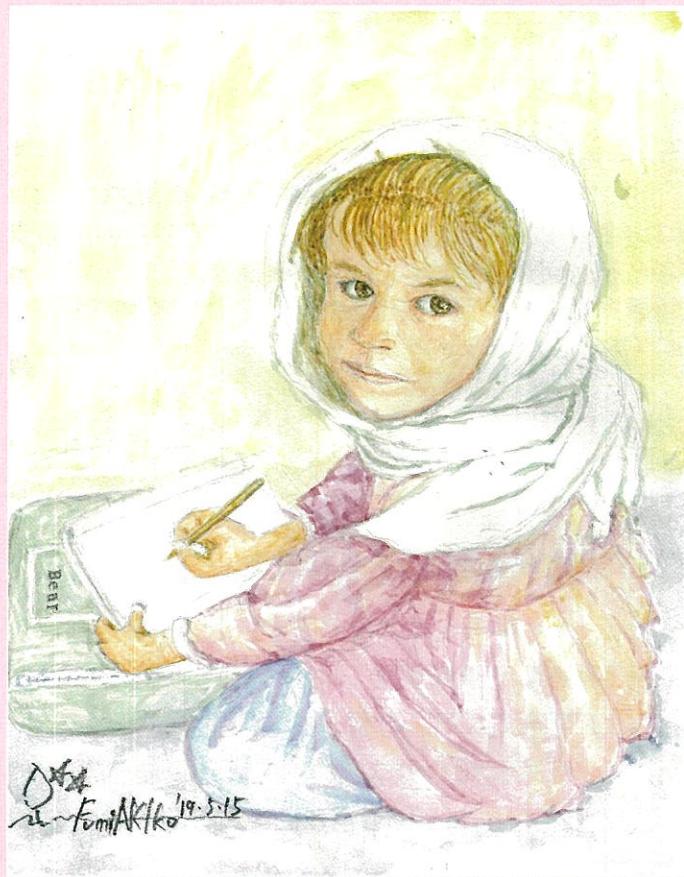


# 沖縄闘争で獄中44年 無念の獄死

# 第6回

追悼

# 星野文昭☆暁子 絵と詩による二人展



絵・星野文昭 「アフガン・山の学校で学ぶ」 2019・5作 絶筆

**2020・8・1(土)～4(火)**  
会期中 AM 10:00～PM 6:00  
初日 PM 12:00～PM 6:00  
最終日 AM 10:00～PM 4:00

## 星野暁子さん講演

8・2(日) PM 2:00 ~3:00  
「文昭と生きた 35年」  
PM 3:00 ~4:00  
懇談

## アトリオン 3F A室

(入場無料)

秋田市中通 2-3-8

018-836-7803



## 秋田星野さんの遺志を引き継ぐ会・絵画展実行委員会

連絡先 080-1696-4254 onoba121@docomo.ne.jp 小玉由利子

秋田市泉中央 4-5-15 018-863-0708 芦野雅春・純子

# 最愛の妻暁子さんへ送った絵 20 点を展示

星野文昭さんは2000年から絵を描きその絵と暁子さんの詩でカレンダーを創ってきました。どの絵も人間への温かい眼差しを向けた絵ばかりです。



## <星野文昭さん・1946年札幌生まれ(享年73歳)>

☆ 1971年11月14日 沖縄返還協定批准阻止闘争で機動隊員死亡の実行犯にでっち上げられ、87年無期懲役刑が確定、徳島刑務所に移監。無実を訴え獄中で再審請求。

☆ 受刑30年を越え、四国地方更生保護委員会に仮釈放を求めて闘つたが19年3月不許可決定、4月東日本成人矯正医療センターに移監され、肝臓癌手術を受けたが5月30日逝去、不屈の獄中闘争は44年。

## <星野暁子さんプロフィール>

1954年山形生まれ 1984年秋田大学在学中星野文昭さんの裁判を知り 1986年文昭さんと獄中結婚 以後再審運動の中心になって文昭さんを支え続ける「星野文昭さんをとり戻そう!全国再審連絡会議」共同代表 文昭さんとの共著に「無実で39年 獄壁越えた愛と革命 星野文昭・暁子の闘い」がある。(ホームページ・検索 星野再審)

写真は2020・2・21遺影の前で「すべての人間が人間らしく生きられる社会をつくるために、自分の生を尽くしたい」という文昭さんを好きになったと語る星野暁子さん

## 伊藤胖(ゆたか) <元秋田大学教授・秋田星野文昭さんをとり戻す会会員>

約30年前、星野暁子さんは聴講生として秋田大学に1984年から1986年の3年間ほど在学した。暁子さんは30歳前後、私は45歳頃であった。その間何回か私の研究室に来て話をした事を覚えている。記憶は断片的で飛び飛びである。暁子さんの話し方は穏やかであった。実った柿の木を見上げていた暁子さんの背中に、ふと寂しさを感じたことも覚えている。暁子さんは1984年星野文昭さんの東京高裁での本人の意見陳述で語った「全ての人間が人間らしく生きられる社会を作るために、自分の人生を貫きたい」という言葉に感動した。その後裁判を傍聴するために秋田から東京へ何度も通った。月一回の面会と文通が始まった。彼女の体当たりの行動が彼を動かし1986年両者の親たちを動かし結婚の手続きをするまでになった。文昭さんへの判決は無期懲役であった。秋田大学在学の期間はこの時期に重なっていた。彼女の見せた「さびしさ」の背景にはこのような事実があった。今年6月1日暁子さんの講演を聴くことができて私の頭の中で繋がってきた。

現在暁子さんは、東京から四国の徳島刑務所に通っている。徳島刑務所の暁子さんと文昭さんの待遇は極めて劣悪である。文昭さんは夏には40度をこす暑さでもエアコンも扇風機もない、冬は暖房がない。私が今回の講演で強く感じたことは、日本の司法のあまりのひどさである。それはアムネスティ・インターナショナルも取り上げているように人権無視の扱いであり、また権力に逆らう者に対する報復である。講演を聞くうちに日本の司法に対する怒りが込み上ってきた。文昭さん、暁子さんを苛酷な現実から解放するためには彼らを包み込む大きな運動が必要であり、その一端として秋田にも運動が必要であると今感じている。

(秋田ニュース 3号 2014・10・15発行 より抜粋)

## 国家賠償請求訴訟開始!

星野さんを死に至らしめた獄中の医療放棄、医療隠蔽、医療過誤を問い合わせ死の真相を明らかにする国家賠償請求が、2月21日に提訴された。原告は獄中結婚し35年を星野さんと共に闘ってきた妻・星野暁子さん、兄・星野治男さん、弟・星野修三さん。原告代理人には星野再審弁護団と共に、総勢104人の弁護士が名前を連ねるという大訴訟が始まった。

